

2026年4月13日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学が新たに寄附講座「アニメ平和学」を開講 — アニメコンテンツを通じた国際的な相互理解の構築を探る！ —

慶應義塾大学（所在地：東京都港区、塾長：伊藤公平）は、2026年度春学期より寄附講座「アニメ平和学：日本のアニメで『平和』をつくる」を開講します。本講義の目的は、アニメという文化表現が持つ社会的価値を読み解き、それを通じて広義の平和（相互理解・共感・共生を含む）との関係性を学術的に検討し、漠然とした価値を構造化し、自らの言葉で説明できる力を養うことです。単に業界用語や産業構造を学ぶだけでなく、アニメが国や世代を超えて共有されることで生まれる「対話」「連帯」「文化的レガシーの継承」といった効果を理解し、それを概念的・理論的に整理して、社会における意味を見出すことを目指します。

本講座は、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センターが推進する「アニメ平和学」プロジェクトの一環として実施されるものであり、講義内容は慶應義塾大学が企画、Netflix の寄附により開講、両者により運営されます。

1. 寄附講座開講の背景・意義

世界の様々な地域や文化、年代や性別の人が日本のアニメに触れるようになる中で、その社会的効果については、十分に明らかにされていません。日本文化の理解促進といった直接的効果を超えて、アニメが共通言語となり世界中の人にコミュニケーションの機会をもたらし、国際関係や社会的な分断との関わりにも影響を及ぼしうると考えられます。

X Dignity センターでは、アニメ平和学という新たな学問領域のプロジェクトを始動し、2025年8月に第1回アニメ平和学研究会、11月にアニメ平和学ブートキャンプを開催しました。

この度、慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所の協力のもと、2026年度春学期にアニメ平和学の寄附講座を開講します。本講座では、アニメの制作と配信をしている企業の実務家や、政策や国際交流機関で活躍されている専門家に講義をしていただき、グループワークなどを実施することにより、実践力を備えた人材の育成を目指します。

2. 寄附講座の内容

本講座の主な内容は以下の通りです。 ※変更になる可能性があります。

- アニメの波及効果(アニメの持つ経済・社会的効果に関する事例・分析の紹介)
- 日本アニメの射程とその発展(日本アニメの起源。戦前～戦後の発展史とカギとなるアニメ)
- アニメと戦争表象:アジア太平洋戦争／冷戦、その後(アジア太平洋戦争／冷戦、その後の時期において、アニメはいかにして戦争を描いたか)
- アニメと宇宙政策(宇宙の領有権と主権、安全保障と抑止力など)
- アニメとコンテンツ産業政策(コンテンツ政策、アニメの重要性や海外展開、アニメコンテンツの公共性)
- 文化外交とソフトパワーとしてのアニメ(ソフトパワーとしてのアニメと外交の現場)
- アニメと地域:アジア(アジア地域における日本アニメの受容)
- アニメと地域:中南米(中南米地域における日本アニメの受容)
- アニメ文化と外国人ファンの共創(世界コスプレサミットや海外アニメイベントを通じた国際交流)
- アニメと作り手(制作、作り手のグローバル化、多様化)

- アニメの社会的価値の再定義(グループディスカッションと発表)

3. 寄附講座の概要

講座名	Netflix 寄附講座アニメ平和学 ～日本のアニメで「平和」をつくる～
開講期間	2026年度春学期（4月～7月、全14回）
開講場所	慶應義塾大学三田キャンパス
担当教員	水谷 瑛嗣郎（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所 准教授） 山本 龍彦（慶應義塾大学大学院法務研究科 教授）
対象学生	慶應義塾大学学部生 約500名（予定）

4. その他

JSPS 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）事業の取組みの一環です。

■ 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所とは

ジャーナリズムとメディア・コミュニケーションの研究と教育を目的とした研究所です。所属する学生には、ジャーナリズムとメディア・コミュニケーションに関する基礎科目や、メディア心理学、政治社会学、法学、歴史学などに関するゼミ、業界の最前線で活躍している実務家による新聞・放送・広告・PR などについての少人数形式の講義や演習を開講しています（研究所在籍生 約200名、入所試験合格者 毎年約60名）。実際のメディア関連の仕事の現状を直接体感できる授業も多く、新聞、放送、通信社、出版、広告などメディア業界で活躍する優秀な人材を輩出し続けています。



■ 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センターとは

慶應義塾大学は、21世紀における「尊厳（dignity）」の再定義を目指し、新たな領域横断研究の拠点として、2024年に X Dignity センターを設立しました。牛場潤一（理工学部 教授）、大久保健晴（法学部 教授）、徳永聡子（文学部 教授）、山本龍彦（法務研究科 教授）の共同代表により設立され、様々な学問領域の重層的な連携、産業界や一般社会との交差（クロス）を通じて、21世紀における「尊厳」をめぐる倫理的価値を考究し、その成果を世界へと発信しています。



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは、文部科学記者会、各社社会部・教育部等に送信させていただいております。

・お問い合わせ先

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センター

E-mail : x-dignity-group@keio.jp <https://www.x-dignity.kgri.keio.ac.jp/>

・本リリースの配信元

慶應義塾広報室 担当：道祖土（さいど）

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

E-mail : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>